



小田民美  
Hitomi Oda

日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学臨床部門 講師  
一般社団法人 日本動物看護学会 常任理事  
一般財団法人 動物看護師統一認定機構 愛玩動物看護師生涯教育委員  
博士(獣医保健看護学)、愛玩動物看護師

### 経歴

- 2009年 日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科 卒業
- 2014年 日本獣医生命科学大学大学院 博士号取得(獣医保健看護学)
- 2014年 日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学臨床部門 助教
- 2017年～ 日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学臨床部門 講師
- 2019年4～10月 アメリカ・バドュー大学留学

# Recommend

小田民美先生が薦める、この4冊



犬と猫の  
**臨床動物看護ガイド1巻**  
救急の初期対応に注意が必要な症候/  
疾患の動物看護  
編集委員：左向敏紀、上野弘道、宮田拓馬  
小野沢栄里、三橋有紗、新谷政人  
A4判 並製 648頁 オールカラー  
定価：26,400円(税込)

小田先生ご執筆



動物医療従事者のための  
**臨床栄養学**  
執筆：石岡克己、徳本一義、小田民美、  
小沼守、堀達也  
B5判 並製 208頁 オールカラー  
(栄養指導会話事例動画約20分付き)  
定価：6,600円(税込)

小田先生ご執筆



動物看護  
405号(2023年10月号)  
意外と多い!  
内分泌疾患の動物の  
治療と動物看護(仮)  
動物看護専門誌  
月刊 A4判 96頁 オールカラー  
定価：2,800円(税込)

小田先生ご執筆



今さら聞けない!?  
動物医療の基礎知識  
動物看護技術編  
as編集部・編  
A4判 並製 208頁 オールカラー  
定価：9,790円(税込)

小田先生ご執筆

詳しくはEDUWARD Press オンライン「獣医療のミライ」特設ページ  
([https://eduard.online/lp\\_future\\_of\\_veterinary\\_medicine](https://eduard.online/lp_future_of_veterinary_medicine))をご確認ください。



# 獣医療のミライ 12

インタビューシリーズ



小田民美  
日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学臨床部門 講師

日々の実践が、動物看護のミライを拓く  
データの蓄積と専門化、発展の礎に

EDUWARD Press

オンラインサイト <https://eduard.online>



受注専用 TEL: 0120-80-1906 受付: 平日9:00~17:00  
受注専用 FAX: 0120-80-1872 受付: 年中無休・24時間受付

DM: 70001943

## より多くの命を救うために選んだ、『教育者』という道

—小田先生が動物看護の道を目指されたきっかけを教えてください。

私の母は人医療の看護師で、看護の分野には元々興味がありました。看護の中でも、興味の方向が動物に向いたのは、飼っていた犬が病気になる、動物病院にお世話になったことがきっかけだったのかなと思います。

—小田先生は、なぜ教育者の道に進むことにされたのですか？

大学4年生のときは、「卒業したら動物病院に就職し、多くの動物を自分の手で救いたい」と考えていました。その考えを指導教員であった左向先生にお伝えすると、「自分一人の手で動物を救うには、限界があると思わないか？ 動物看護の教育者として学生を育て、その学生たちが臨床現場で活躍してくれたら、より多くの動物を救うことができるんだよ。動物看護学の教育を先導する人材として、大学院進学という道もある」と、言ってくださったんです。その言葉に導かれるようにして大学院に進み、動物看護の教育の現場に携わることを決意しました。

—大学、大学院と糖尿病を研究されていたとのことですが、その中でも、特に興味深い点はなんですか？

食事療法です。糖尿病治療では食事療法、運動療法、薬物療法の3つがあり、特に食事療法が重要です。食事の内容によって血糖コントロールに大きく影響が出たり、そもそも食事をしっかり摂れなければインスリン治療ができなかったりします。それほど食事は大切なもので、生きていくための基本となります。そのため、いかに動物たちにきちんと食べてもらうかを考えるところにやりがいを感じます。

食事療法の考え方は、愛玩動物看護師の業務としても重要な「飼い主教育」に通ずる部分もあります。人の看護学では、病気でなくその病気を患った患者さんにフォーカスしてケアをするのですが、動物看護学においては動物だけでなくその飼い主さんについても考えてケアを行います。動物が自宅で療養生活を送るには、飼い主さんにさまざまなケアをしてもらう必要があります。飼い主教育がうまくいくかどうか動物の治療効果に大きく関わってくるからです。

ただ、講義や実習でこの飼い主教育について教えるのは本当に難しいです。動物や飼い主さんのキャラクターや状況によって、アプローチの仕方や対応は全然違ってきますので、ある意味、栄養管理や飼い主教育の方法に正解はないんですよ（笑）。



ですから、学生たちに対してよく言うのが、「答えは動物と飼い主さんがもっていると考えてほしい。飼い主さんの話をよく聞き、動物の様子と飼い主さんの表情をちゃんと見れば、おのずと答えがみえてくるはず」ということ。学生の間は特に、動物と向き合い、飼い主さんと時間をかけて対話し、自分なりに考えてみることを、さらに周りの人たちと話し合っただけでさまざまな考え方があることを知るのが重要だと思います。

## 英語での研究報告、世界中の動物をも救える希望に

—これまでのお仕事の中で、どんな場面で特にやりがいを感じられますか？

教育者として卒業生たちが活躍している様子を伺ったときはもちろんですが、研究者としては動物医療に貢献できることに大きなやりがいを感じます。特に私は臨床研究がメインとなりますので、自身の研究によって、直接的に動物を助けられるからです。印象に残っているのは、アメリカ・インディアナ州のパデュー大学留学時に参加した、ACVIM（米国獣内科学アカデミー）での出来事です。糖尿病治療に関する講演の中で、内分泌分野の著名な先生が「この研究が本当に素晴らしいものなんだよ！」と（「クレイジーな研究なんだけどね！」とも）、興奮気味に話しておられました。それが実は、我々の研究室が報告した「超長時間型インスリンによる治療効果」に関する論文だったんです。

実はアメリカにおいて、糖尿病は飼い主さんが安楽死を選ぶ確率が高い慢性疾患の1つ。生涯にわたりインスリン注射がなければ生きていけないことが、「人間によるエゴ」と捉えられることが多いのが、安楽死を選ぶ大きな要因だそうです。しかし、ACVIMの講演では、我々の研究データを参考にして、1日1回の投与で済む新規のインスリン注射での治療を勧めたところ、「治療を前向きに考えてくれるようになった飼い主さんがいた」と話されました。この講演を聞いたとき、「研究成果を世界に向けて発信することで、糖尿病のように管理の難しい慢性疾患を患った世界中の動物を救えるかもしれない」と希望を感じました。そして、

「今まで研究を続けてきたことは間違っていなかった」と思った瞬間でもありました。

## どうなる？ 愛玩動物看護師のキャリアプラン

—愛玩動物看護師は今後、どのようにしてその国家資格を生かし、それぞれのキャリアプランを描いていけばよいとお考えでしょうか。

国家資格の取得後、愛玩動物看護師がそれぞれの現場で活躍していくための手段の1つは、「専門性を高めること」だと思います。実はアメリカへの留学には、動物看護師の専門認定制度を視察する目的もあり、今後、日本でもその制度化を進めていきたいと考えています。専門性を身に付けた愛玩動物看護師が幅広い分野で活躍することで、よりよいチーム獣医療が実現できるのではないかなと思います。また、留学中の私の指導教官が大動物の外科の先生だったのですが、診療の中で大動物の動物看護師の方々の働き方を拝見し、日本でも大動物臨床における動物看護師の必要性も感じました。

—これからは愛玩動物看護師の職域も広がっていきそうですね。

そうですね。今後、日本でも愛玩動物看護師の専門性が高まり、愛玩動物看護師自身が自分のキャリアプランを具体的に描けるようになると、多くの方が愛玩動物看護師を生涯の仕事として選択できるようになると思います。

世界的に見ても動物看護学という学問の歴史はまだ浅く、エビデンスがそれほど多くはいえませんが、現場の皆さんには、ぜひ日々の働き、動物看護の実践を記録に残し、外部にどんどん発信していただきたいです。そのデータの蓄積が重要なエビデンスとなり、動物看護学の発展につながると思っています。

—学問の発展は、日々の業務とつながっているのですね。それでは最後に、読者へのメッセージをお願いします。

国家資格化によって、日本の動物看護学は新たなステージに向かっていきます。そのため、繰り返しになりますが、日々の実践の成果を外部に発信してほしいです。今後も動物看護学の発展と、人と動物の幸せのために、ぜひ一緒に頑張っていきたいと思います！

